

パブリックコメントの結果について

No	該当箇所	意見の概要	意見に関する市の考え方
1	p5	(3)地域福祉１００人会議の実施 １００人会議に参加した方の構成(各種団体への要請もあったし、公募もあったはず。その割合) 各回の実際に参加した人数の記載(名称は１００人会議だが、実際に１００人で話し合ったとの誤解を避けるため)	民生委員児童委員から包括支援センターまでは人数指定で参加依頼。そのほかについてはボランティア団体に所属する人たちを主に一般参加として勧奨した。 １回目85人、２回目80人で記載した。
2	p6	世帯の種類別一般世帯数と・・・ 世帯の種類には一般世帯と施設等世帯、その他世帯があるので、表でそれがわかるように、一番左側に列を追加し、分けした方が分かりやすい。 「単身世帯」とあるが「単独世帯」ではないか？単身赴任との誤解を避ける。 単独世帯に修正する場合、欄外や以降の分も修正。 「三世帯世帯」とあるが「多世代世帯」でなくてよいか？	表の左端に区分「一般世帯」を追加した。 単独世帯に修正した。 国勢調査の扱いに合わせ、そのまま三世帯世帯とした。
3	p10	最終行「しかし、裾野市の高齢化率は・・・」 【接続詞修正検討】 逆説でなく、注視する部分であるため、「しかし、」→「ただし、」 増加に反して減少しているのなら「しかし」だが、程度が低いだけなので「ただし」の方が良いと思う。	「ただし、裾野市の高齢化率は静岡県や全国よりも低い割合で推移しています。」に修正した。
4	p11	高齢者がいる世帯数と・・・ 【修正検討】 「高齢者"が"いる世帯」→「高齢者"の"いる世帯」 ニュアンス的に邪魔物のようにとられかねない。また内閣府の「高齢社会白書」においても「の」を利用した表現となっているので合わせた方が無難。	「高齢者のいる世帯は大きく増加しており、～」に修正した。
5	p11	要支援・要介護・・・ 【修正検討】 最終行の終わり方。 「増えている"の"が"わかります」客観的でない。話し言葉？、「事が」が適切。ただし、他文章表現と合わせるため、 「増えているのがわかります」→「増えている(or増加)傾向にある」が良い。	「増加傾向にあります。」に修正した。

パブリックコメントの結果について

No	該当箇所	意見の概要	意見に関する市の考え方
6	p15	民生委員・児童委員 【修正検討】 表題 "・"がどこを文章を区切っているか分からない 「民生委員・児童委員・1委員あたりの・・・」 →「民生委員・児童委員」と「1委員あたりの・・・」 表題「受け持ち世帯数の」 ・年で区切っているのであくまで「平均」である ・「受け持っている世帯」と「範囲として担当している世帯数」は異なる。また市からは、委嘱時に「"担当"地区」を指定している。 ・世帯とあるが、「施設世帯」は基本的に受け持っていない。 以上から、「一委員あたりの"平均担当一般"世帯数の」と修正する。	「 民生委員・児童委員数 と 1 委員あたりの平均担当一般世帯数の推移」に修正した。 「 1 委員あたりの平均担当一般世帯数は～ 」に修正した。
7	p16	「 課題 」内の【文言修正】 4 行目「行政では対応が難しい行き届きにくい細かなケースについては、地域での支え合いでによるカバーしていく必要がありますが必要となる。」 →「対応が難しい」の意味が困難事例との誤解を招きかねない表現であるため、明確にする。また地域に押し付けるかのような表現を必要性という位置づけにする。	「行政では対応が行き届きにくい細かなケース～」に修正した。
8	"	「 課題 」内の【文言修正】 5 行目「出生数も大幅な増加傾向にはありません横ばいにある」 →逆説で「大幅な減少傾向にもない」とも書ける。ので選択誘導がある。「客観的な表現」すべき行。	「年少人口が減少傾向にあり、出生数も横ばい傾向にあります。」に修正した。
9	"	「 課題 」内の【文言修正】 9 行目「単身」→「単独」高齢者にも単身赴任はいる。意味を明確にする。	「単独世帯が～」に修正した。
10	"	「 課題 」内の【文言修正】 9 行目「高齢化に伴う高齢者単身世帯の独居増加がありますも挙げられる。」 →・高齢化と高齢者独居は直接リンクしない。 ・「あります」と断定しているが、そのもとになる D A T A が資料としてない。(つける必要もある) ・若者の晩婚化も単独世帯にはあると思うので、一つに絞るような表現を避けた方が良い。	「高齢者の独居の増加～」に修正した。またp11「高齢者のいる世帯数と割合の推移」に「うち一人暮らし高齢者世帯」を追加した。

パブリックコメントの結果について

No	該当箇所	意見の概要	意見に関する市の考え方
11	"	「課題」内の【文言修正】 12行目「認定者数の増加はしており、比較的程度の軽い人の増加が大きい顕著です。」 →全体的な動向(傾向)と割合的な動向(要因)とを課題として区切る。	「～認定者数は増加しており、比較的程度の軽い人の増加が顕著です。」に修正した。
12	"	「課題」内の【文言修正】 16行目「本当に保護の必要があるかを見極める必要がある」「必要とする支援のレベルを見極める必要もある」 →表現が現状を疑った表現である。 「被保護人員の状態を疑っている」と思うが、認めている側(市職員、担当した民生委員等関係者)の質をも疑う表現であるため疑問。 ニーズは高まっているが、全員が同じレベルの保護を必要としているとは限らないといったニュアンスを含む。 同文章17行目「・・・支援を必要としている人に支援を提供できるように・・・」は当たり前。→「地域と協力して支援が行き届くようにしていく必要がある」	「～必要とする支援のレベルを見極めることが大切です。」に修正した。 「～地域と協力して支援が行き届くようにしていく必要があります。」に修正した。
13	"	「課題」内の【文言修正】 19行目【追記】 「民生委員・・・ティア"の人数"は、ほぼ横ばいで推移しています」？→「何が横ばいか」が良くわからない。 特に民生委員・児童委員の方は、グラフが数種類提示されている。「人数」のことですよね？	「民生委員・児童委員、ボランティアの人数は、ほぼ横ばいで推移～」に修正した。
14	p36 ・37	・「社協の事業・取組み」「社会福祉事業・取組み」 ・「社協の事業・取組み」の項目で、「社協の自主事業」と「市の委託事業」とを分けて表現した方が良い。「」を別々に表現。例えば「社協自主事業」「●市委託事業(2015現在)」として、欄外に凡例を記載する。 →本計画は5か年計画であり、市の委託事業は毎年だったり、指定期間だったりしているため途中で委託先が変更になっても計画修正が不要。	・この計画は地域福祉計画と地域福祉活動計画を一体で策定するため「社協の事業・取組み」とした。 ・「社協自主事業」「市委託事業」を区分した。またこの表だけでなく、p38以降にある事業についても「」で区分した。
15	p38 ～p59	「社会福祉協議会の施策」中、市からの受託業務について「継続」と表現することはいかがなものか。「事業受託継続に努力」等が良い。(特にp51：指定管理業務は必須)	社会福祉協議会の施策の事業内容を示す表の中に、「市委託事業」に該当する部分については「事業受託継続に努力」

パブリックコメントの結果について

No	該当箇所	意見の概要	意見に関する市の考え方
16	p48	「裾野市のいいなあ・気になるなあ」に「商店街が元気がない」「市役所内の連携が取れていない」と記載されているが、「【具体的な取り組み・施策・事業】や【行政の施策】」に、ここに当たる内容の記載がない。 →追記する必要がある。	市の方向性として以下のとおり追記した。 「商店街が元気がない」 ... 中心商業地の活性化 *中心市街地商店街が自ら行う商店街振興策や環境整備事業に対する支援を進めます 「市役所内の連携が取れていない」 ... 庁内連携の充実 *地域福祉は関連する分野は、福祉、保健、市民活動、教育、環境等、多岐に及ぶため、担当部署を越えた連携により、解決に取り組む体制を整備します。